

宝物はすぐそばに

校内研通信

第15号

R7.9.29

発行者:校内研担当 仲村智

29日の「肉の日」のSpecialな授業に出藍の誉れを得る

9月29日(月)5校時、2年4組にて饒波志音先生が数学の授業を公開しました。本時のねらいは、具体的な事象の中の数量関係を1次関数とみなし問題を解決することです。生徒にとっては身近にある焼き肉店の料金設定を題材に3つあるプランの中から、どのコースが一番お得(安く)なるかを、主にグラフを用いて課題解決していきました。志音先生の持ち前の明るさと生徒との軽快なやりとり(導入)のなか、事象を数学化して考えていく上で、1次関数としての重要なポイントをおさえつつ、生徒は試行錯誤しながら自力解決→グループ→全体共有と数学科の問題発見・課題解決の過程をスムーズに循環させることで、特にグラフで表すことの実用性を実感できた授業となりました。多少Cコースの料金設定の特殊性(※数学の問題らしくするため)に戸惑う生徒も見られましたが、well-madeな問題にしていくための細かな数字の設定や事前の教材研究の深さなど充分感じる事ができました。

右も左も分らず教員生活をスタートして数年、ここまで成長しているとは😊指導教官として突き落とす千尋の谷はもうなかったのですね。志音先生、勉強になる授業をありがとうございました😊



リーディングスキルテストの視点に基づく授業改善

導 入 ～本時の問題(課題)を正しくつかめるようにするために～

- ☐ 教師が提示した問題文(課題)を正しく読めているか確かめる。(①～⑥の視点全てに関わる)
- ☐ 問題文や目標等を子供たちに視写させる際は、教師が何を書くのかを口頭で伝えてから板書し、教師と共に書き終える。(共書きをする)(①～⑥の視点全てに関わる)
- ☐ 問題(課題)から授業で何を学習すればよいのかを子供たちに問う。(⑥具体例同定)

指導のPoint

- 「この言葉の意味は分かりますか(どんな意味でしょうか)」と問う。
特に教科内容以外の一般的な言葉にも留意する。
【令和元年度 戸田市教育研究集録 p 4-5 参照】
- 「今日の授業では、どんなことを学習するとよいでしょうか」と問う。
問題(課題)を正しく解釈できるようにするとともに、本時のゴールイメージの共有へつなげる。



展 開 ～子供たちの理解を深めるために～

- ☐ 文章に書かれていない主語や述語を補う。(主語や述語を問う場合もある)(①係り受け解析)
- ☐ 指示代名詞(それ、これなど)が示す言葉を明確にする。(②照応解決)
- ☐ 根拠に基づき考えを発表したり、グラフや表等から事実を読み解いたりする活動を行う。(④推論)
- ☐ 文章で書かれていることを絵や図等で表現する活動を取り入れる。(⑤イメージ同定)
- ☐ 理解が曖昧な言葉は、教科書や辞書等を使って調べるようにする。(③同義文判定・⑥具体例同定)

指導のPoint

- 教師が教科書をよく読み、事前に子供たちが読みつまずきそうな所や定義文(例:～とは…である)等を把握しておく。
- 図やグラフ等を必要に応じて関連付けながら学習できるよう事前に準備しておく。(具体の世界と抽象の世界とをつなげることが大切)



終 末 ～授業を振り返ることができるようにするために～

- ☐ 今日学んだことから「わかったこと」「わからないこと」「次回考えたいこと」「よかった友達の考え」などについて、子供たちが振り返る場面をつくる。(①～⑥全てに関わる)
- ☐ 新しく学んだ用語を使って、文章を書く場面をつくる。(⑥具体例同定)

指導のPoint

- ただ漠然と「今日の学習を振り返りましょう」と指示せず、教師が視点を示してから振り返らせる。また、子供たちが板書やタブレット等をもとに振り返ることができるよう、学習のあしあとを残していく。

